

平成29年度第2回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1日 時 平成30年3月14日（水）午後3時30分～4時45分

2場 所 和束町体験交流センター 会議室

3出席者 広域連合長 堀 忠雄
副広域連合長 手仲 圓容
副広域連合長 西村 典夫
教育長 西本 吉生
教育委員職務代理 石橋 常男
教育委員 北口 弘子
教育委員 中井 薫
教育委員 大西 研介

4傍聴人 なし

5議 事

(1) 開会

司 会 山本事務局長

(2) 広域連合長あいさつ

堀 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。

(3) 教育に関する「大綱」について

教育長から、資料1に基づき教育に関する「大綱」に対する教育委員会としての改定の意見について説明を行った。
質疑等の結果、大綱案については、異議なく承認された。

<主な質疑・意見交換>

○副連合長

教育の中で、生まれた地域を愛し、その地域を継いでいかなければならないという自覚を持たせるような教育は可能か。

○教育長

教育は人づくりであると考えている。今回の給食費や修学旅行費の無償化は、保護者負担の軽減だけではなく、子ども達が地域に守られている・育てられているということを認識する中で、「地域に何かお返しをしなければ、貢献しなければ」という心を大事に育てられるようにと考えている。

○副連合長

笠置小学校でも町内の様々なところへ行って学ぶ「ふるさと学習」で特産品開発などが行

われている。

○教育長

「ふるさと教育」は全5校でやっているが、これは連合独自の取組。地域に根ざした、地域貢献活動などを活発に行っている。

○副連合長

世の中に出たときに大事になるのは、洞察力、人間関係を築く力、自分で対応していける力をつけるのが教育。義務教育の中で育てていく必要がある。地域で育った子どもが、大学進学などで外に出ても、地域で何が出来るだろうかと考え戻ってくるような人をつくるのは教育しか出来ない。親の考え方も影響するが。

○副連合長

地域おこしなど様々な活動を地元でしているのは、地元出身者ではなく、都会からの移住者がほとんど。外から来た人がその地域を良くしよう、何とかしようといろいろなことをしている。生活のレベルは下がるが「こんないいところがある」ということで、行事などへの参加や、消防団の活動もしてもらっている。本来なら、地元の者がやるところ、出て行ってしまっている。

○教育委員

教育はすぐに芽が出るものではない。連合教育として9年間取り組まれたところだが、その頃の子供たちが、外に出て、地域の良さを思い出して戻ってくるにはまだ少し時間がかかるのではないかと。我々が子供の頃は、ふるさと教育を熱心にされていたような記憶は無い。今の小中学生は地元のことを大好きと思っているはずである。笠置ではボルダリング用の岩に名前やレベルを付けて貼り出したりしたり、クラブが立ち上がっている。これから、連合教育が花開くのではないかと。離れていてもまた戻ってくると思う。外から来た人は純粋にその土地の良さを感ぜられるのではないかと。子ども達は自己肯定感とか地域で育てられているという気持ちを感じており、いずれはふるさとに貢献してもらえと思う。

(4) 平成30年度における重点的な取り組みについて

教育長が資料2に基づき「平成30年度の重点的な取り組み」について説明を行い、意見交換を行った。

<主な質疑・意見交換>

○副連合長

10年目という冠を付けた事業に取り組んでほしい。学校教育においては英語をさらに頑張らないといけない。子供たちが面白いと興味を持つような授業となるように先生を指導してほしい。一生懸命というのが逆効果になることもあり、楽しい、面白いと思える授業、達成感、満足感がなければ教育の効果は望めない。先生に対する教育をしっかりとしてほしい。

○教育委員

大規模校になると同じ教科に複数の教員がいて競争が生まれるが、小規模校ではそれが出来ない。ALTはあくまでネイティブの発音を聞かせるために招いているもので、英語を教える技術は持っていない。ALTを上手に使える英語教員が必要となっている。今、和束に来ているALTは自分から子どもの中に入っており、子ども達には英語の面白さが芽生えてきていて、期待が出来る。7月で終わりになるのは惜しい。

○副連合長

先生には、子ども達の気持ちをつかんで興味を持たせるような技術を修練してほしい。

○教育長

子どもに興味をいかに持たせるか。そのためには先生が教材研究や創意工夫を行う必要がある。連合管内の先生は、教えたらいよという認識ではなく、とにかく一生懸命になっている。

○連合長

連合ならではの教育の推進に向けて、学校間の先生同士の連携はあるのか。

○教育長

小学校では、小小連携の中で学年毎に集まって授業の相談や情報交換を行っている。中学校ではまだそこまでには至っていない。

○教育委員

児童も別の小学校の児童を名前と呼んだり、友だちになったりと交流が進んでいる。

○教育委員

連合は教育の指定校にも多くなっている。若い先生は、研究授業などを受け持つ中で切磋琢磨しているのではないかと思う。小規模校でも競争意識が生まれるだろうし、小小連携でお互いの授業を見ることによって、1学年1クラスであっても2クラス的环境になっている。連絡調整は大変だろうが、連合は特別な環境にある、山城管内でも指定校になっているところは少ない。

○教育長

研究指定は、大きな町では滅多に回ってこない。連合では隔年で研究発表をしており、授業研究などでお互いに刺激を受けることによる資質の向上に努めている。

○教育委員

今、新しい先生の研修係をやっているが、生徒を引きつけられるようになるためには、とりあえず落語を聞き、落語家がどうやって言葉だけで観客を落語の世界に引き込んでいるのかについて考えさせることから始めている。興味付けというのは、話の内容はともかく、話の情景が描けるかということが手始めだが、話しが巧みな先生は少ない。20年ほど前、府立高校で授業が上手という評判の先生を「授業の達人」として指定し、他の先生がその授業を見学して何が生徒を引きつけるのかを自ら感じ取るという制度があった。達人に指定してもらおうという意欲も生まれていた。

○副連合長

子どもの気持ちを引きつけて、難しい問題でも、難しく教えるのではなく、ゆるいところも混ぜながら、興味を持たせていくことが大切である。

○教育委員

小学生の息子がいるが、小小連携、小中連携ということで、一つの小学校だけではできないことを体験・経験させてもらって、保護者としてはうれしいかぎりだが、その先に学力面でも伸ばして欲しいと思う気持ちもある。

○教育長

学校教育においては、豊かな人間と学力が2つの大きな課題。

○副連合長

一番大事なのは子ども達が興味を持って真剣に授業を受けるかと言うことであり、そのためには先生方の創意工夫がすごく大事だと思う。自分の経験から、ちょっとしたことで子どもをほめることも大事ではないかと思う。

○連合長

自然から教わること、人間が本来持つ成長しようとする力と教育が相まっていくことが大事なのではないかと思う。

○教育委員

郷土愛を育むには、一度離れて違う価値観の中で生活してみることも重要であり、その中でやはりふるさとの良いと思っけて戻ってくる。そういったところでは「ふるさと学習」において出来ていると思う。

○連合長

「連合の連合による連合のための教育」とは

○教育長

「連合の」とは、連合が責任を持ってやるという意味。「連合による」とは、連合自身が行うと言う意味。「連合のための」とは、連合のむらづくり、まちづくりのためという意味。そのための人づくりをやりましょうということ。